

# 平成21年度決算の概要

平成21年度の水道事業会計の決算についてお知らせします。

有収水量は、409 3万2千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で昨年度より100万2千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>減少。

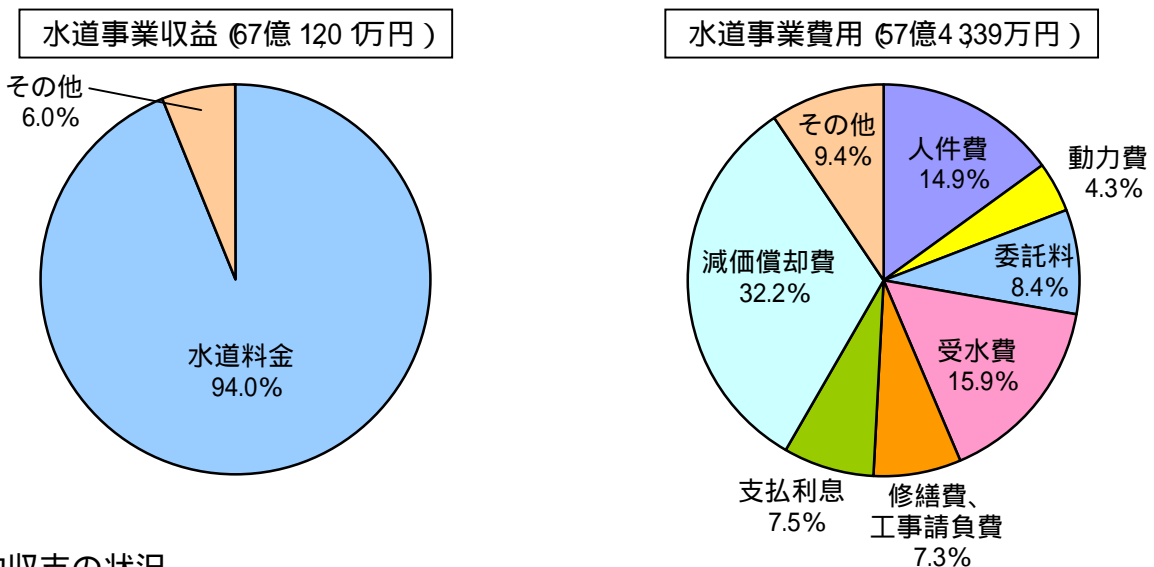
平成21年度の年間総配水量は42 235 790<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、そのうち水道料金の徴収対象になった水量(有収水量といいますが)は、40 932 070<sup>3</sup>m<sup>3</sup>になり、配水量に対して96.9%(有収率といいますが)となっています。

平成21年度決算は9億6 862万円の純利益

決算の状況は、総事業収益は67億 120 万円(消費税及び地方消費税抜、以下「税抜」)で、これに対する総事業費用は57億4 339万円(税抜)となり、この結果、9億6 862万円の純利益となりました。

## 収益的収支の状況

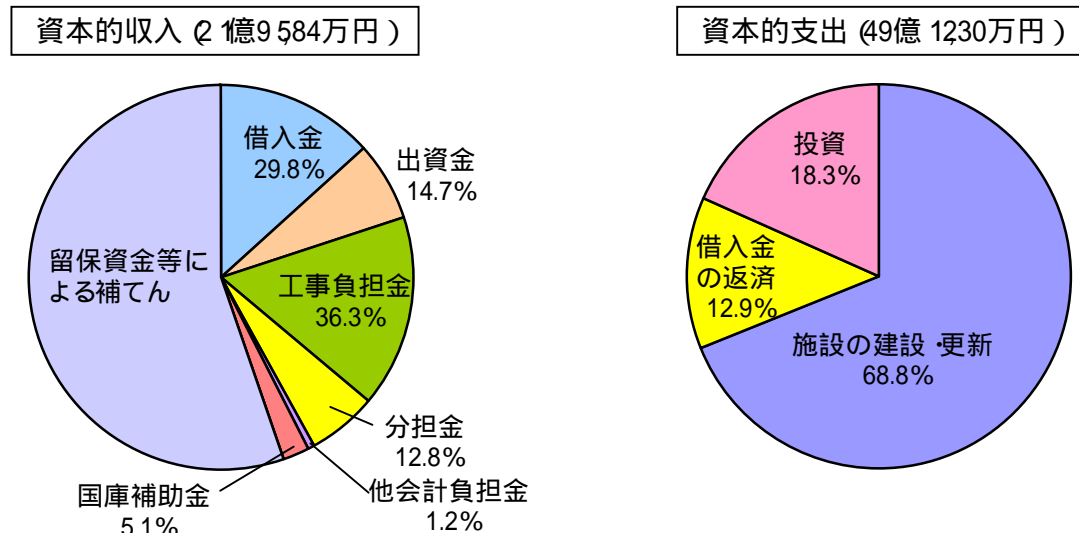
水道事業会計のうち、施設の運転・管理等、水道事業を運営するための経費とその財源の状況です。



## 資本的収支の状況

水道事業会計のうち、水道施設を建設・整備するための経費とその財源の状況です。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、施設の更新の資金とするために企業活動により蓄えられた現金・預金等(留保資金といいますが)により補てんしています。



平成21年度は、浄水施設の更新事業として滝ポンプ場やグリーンランドポンプ場の電気設備等更新工事、老朽管対策事業では、鋳鉄管の布設替工事を行いました。防災対策事業においては、男川浄水場浄水池や北斗台低区配水場2号池の耐震補強工事に加え、竜泉寺配水場配水池の耐震化増設工事が完了しました。

また、新たに取り組みを開始した水道管路耐震化事業では、市民病院ルート工事に着手するなど、安全で安心できる水道水の安定供給に努めました。